

稲作



田植え作業の管理

田植え作業は急がずに、

温暖な日を選びましょう

田植え作業は、日平均気温14℃以上（中苗）、できれば最高気温20℃以上の温暖な日に行いましょう。最高気温15℃以下の低温時や強風の時は見合わせましょう。

田植え直後は、活着を促進させるため、水深4cm程度の湛水状態として保温に努めましょう。

補植用余り苗は、いもち病が発病しやすく伝染源になります。補植を行う場合は、田植え後速やかに実施し、補植終了後は直ちに泥に埋めるなどして処分してください。

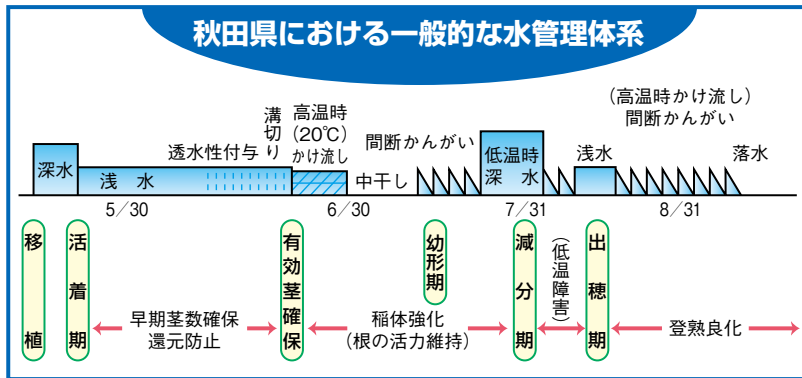
分けつを促進させる

水管理について

高品質・良食味米の生産技術として強勢（初期）分けつの確保が重要です。

分けつを促進させるためには、水温の比較差がポイントとなります。「早朝かん水・日中止水」を基本に、気温が15℃以上の場合には浅水管理、15℃以下の寒い日は深水管理としましょう。

分けつの発生最適条件は、最高水温



除草対策の徹底

除草剤散布は、効果を最大限

発揮させましょう

雑草が小さいうちは、除草効果も高くなります。適期の散布に心がけましょう。除草剤散布後1週間は止水し、湛水状態を保ちます。落水、かけ流しは行わず、畦畔等からの漏水にも十分注意してください。

30℃、最低水温15℃、日平均水温23℃です。

アオミドロや表土はく離等が発生した場合は、早朝や降雨日に水の入替えを行って発生を抑えましょう。

イヌホタルイ やノビエの多発田では、アカスジカスミカメの侵入が助長されます。適切な本田除草対策は、『斑点米カメムシの発生予防』につながります。

ホバークラフト除草剤散布申込開始

一発除草剤『メガゼータフロアブル』を、「3,500円/10a」で散布致します。注意点として、①散布適期は田植え後5日〜2週間を目安にしてください。②散布前日までに、水深・最低5cm以上の水を張ってください。③生育の管理は自己責任でお願い致します。詳しくは、営農経済課・各営農センターまでご連絡下さい。

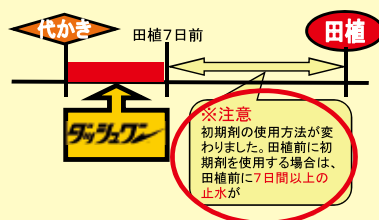


お知らせ（正誤表）

4月JA広報誌への折込チラシ（北興化学工業株式会社「ダッシュワン＋エーワン」体系チラシ）の内容について、一部、脱字がございましたので、お詫びして訂正させていただきます。

訂正箇所

チラシ右下「おススメの使用方法②（代かき～田植えが7日間以上空く方）」の部分抜粋



誤	正
※注意 初期剤の使用方法が変わりました。田植前に初期剤を使用する場合は、田植前に7日間以上の止水が	※注意 初期剤の使用方法が変わりました。田植前に初期剤を使用する場合は、田植前に7日間以上の止水が 必要 になります。